



JRセントラルタワーズ（名古屋市）

フロート  
板ガラス

フロート板ガラスは1960年代に開発されたフロート法（熔融金属の上にガラス素地を流し、火造りのまま連続成型する画期的な方法）により製造が開始されました。以来旧製造方法（機械引上げ法）に代わり、現在では全世界的に普及している透明板ガラスです。

昨今、板ガラスの二次加工技術が高度化した背景には、製造開始以来培われてきた素板（もといた）としての高品質なフロート板ガラスの素晴らしさが存在しています。

### 品種・仕様

品 種	呼び厚さ	最大寸法 (mm)	単位面積重量 (kg/m <sup>2</sup> )	板ガラス総重量 (kg)
フロート板ガラス	2ミリ	1,219×610、914×813	5	×ガラス面積 (m <sup>2</sup> )
	3ミリ	2,438×1,829	7.5	
	4ミリ	1,829×1,219	10	
	5ミリ	3,658×2,438	12.5	
	6ミリ	4,572×2,921	15	
	8ミリ	7,620×2,921	20	
	10ミリ		25	
	12ミリ	10,160×2,921	30	
	15ミリ		37.5	
19ミリ	47.5			
すり板ガラス	2ミリ	1,219×610、914×813	5	
	3ミリ	1,829×1,219	7.5	
	5ミリ	2,134×914、1,829×1,219	12.5	

印品種について最大寸法を超える場合には、弊社支店までお問い合わせください。

特長

高い平面精度

フロート板ガラスは、高い平面精度をもっているため、すぐれた透視像が得られます。

採光性

火造りの面をもち透明で平滑なため、採光性にすぐれています。

最大寸法、最大板厚

フロート板ガラスは、最大幅約3m、長さ約10m、呼び厚さ19ミリまでの大板ガラスが生産可能です。そのため、大開口部の構成に自在に使用できます。

フロート板ガラスの標準施工法

サッシに対するガラスのかかりしろは十分にしてください。ガラスのかかりしろが少ないと、風圧を受けた場合に外れる恐れがあります。また施工後、外からガラスエッジ部が光って見えますので、見苦しくなります。

地震による変形や開閉時の衝撃、あるいは不均一な熱応力などによる破損を防ぐため、ガラスの周囲には面クリアランスを確保してください。

シーリング材は、良質の弾性シーリング材(シリコーン系、ポリサルファイド系)をご使用ください。

バックアップ材は、発泡ポリエチレンまたはクロロプレンゴムなどをご使用ください。

グレイジングガスケット、ビード類は耐久性の良い材質のものをご使用ください。

セッティングブロックは、クロロプレンゴム(硬度90°)を下辺に2カ所ご使用ください。

各種クリアランス・かかりしろは、JASS-17(日本建築学会 建築工事標準仕様書、17番、ガラス工事)の数値を採用してください。

参照 P146「板ガラスの納まり寸法標準」

すり板ガラス

すり板ガラスは、フロート板ガラスの片面をけい砂や金属ブラシですってツヤを消し、不透明に加工した板ガラスです。



特長

プライバシーの確保

透視性をさえぎりながら、適度にやわらげられた光を均一に採り入れます。

光の拡散と透過

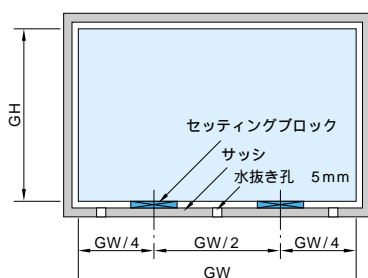
すり板ガラスの標準施工法

「フロート板ガラスの標準施工法」に準じて施工してください。

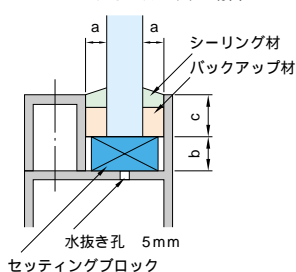
主な用途

間仕切り、住宅などの窓。家具。

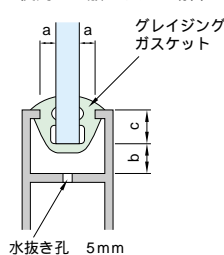
施工図



シーリング材によるカーテンウォール工法の場合



グレイジングガスケット使用の一般サッシの場合



(注) 記号説明

GH: ガラスの高さ GW: ガラスの幅 a: 面クリアランス b: エッジクリアランス c: かりしろ

主な用途

一般建築物、高層建築物、店舗、住宅などの内外装用。温室。

装飾用ガラス、鏡の素板。

各種ガラススクリーン。

ショーケースなどディスプレイ仕器。



熱割れのご注意

ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にご使用いただくために」の「熱割れに関するご注意」をご参照ください。



設計・施工上のご注意

ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にご使用いただくために」をご参照ください。



ご注意

すり面が水に濡れると、透明度が増します。すり面に汚れが付着すると、除去しにくくなりますのでご注意ください。すり板ガラスは、普通の板ガラスに比べ同じ呼び厚さでも強度が低下します。ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にお使いいただくために」をご参照ください。



熱割れのご注意

ガラス共通の注意事項が記載されています巻頭の「ガラスを安全にご使用いただくために」の熱割れに関するご注意をご参照ください。